

三宅島非帰島住民の生活状況についてのアンケート（第1回）

配布世帯数：160世帯、回収世帯数：50世帯 回収率：31%

平成18年11月
三宅島ふるさと再生ネットワーク

A. あなたのご自身のことについて

1. 年齢

- ・ 20代 1人(2%) ・ 30代 3人(6%) ・ 40代 5人(10%)
- ・ 50代 6人(12%) ・ 60代 9人(18%) ・ 70代 9人(18%)
- ・ 80代 14人(28%) ・ 90代 3人(6%)

回答者の年齢については、60代以上が、回答者の7割を占めている。30代から50年代の働き盛りの人は、3割弱である。

2. 性別 1. 男 26人(52%) 2. 女 24(48%)

性別については、男女ほぼ同じ割合である。

3. 現在、一緒に住んでいるご家族の方は、誰ですか。

- 1. 配偶者 21人(42%)
- 2. 子ども 1人—8人(16%) 2人—6人(12%) 3人—3人(6%)
- 3. 父 0人 4. 母 4人(8%) 5. 祖父 0人 6. 祖母 0人
- 7. 孫 1人—3人(6%) 2人—1人(2%) 一人暮らし—3人(6%)
- 無回答 1人(2%)

回答者の4割強が配偶者と、また、3割強が子どもと、1割弱が孫と一緒に暮らしている。一人暮らしは、3人(6%)にすぎず、一人暮らしの回答者が極端に少ない。

4. 現在、別居して暮らしているご家族の方は、いますか。

- 1. いる 25人(50%) 2. いない 22人(44%) 無回答 3人(6%)

回答者の5割が、別居している家族がいる。

1. いると答えた方のみお答えください。それは、誰ですか。

- 1. 配偶者 13人(26%)
- 2. 子ども 1人—9人(18%) 2人—4人(8%) 3人—1人(2%)
4人—1人(2%) 5人—1人(2%)
- 3. 父 0人 4. 母 3人(6%) 5. 祖父 0人 6. 祖母 1人(2%)
- 7. 孫 2人—1人(2%) 4人—1人(2%) 5人—1人(2%)

別居している家族の内訳としては、子どもが3割強、配偶者が2割強である。

5. 避難前の島での主な仕事は（あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください）

- | | | |
|------------------|------------------|-----------------|
| 1. 自営業 11 人（22%） | 2. 会社員など 3 人（6%） | 3. 公務員 8 人（16%） |
| 4. 無職 17 人（34%） | 5. その他 10 人（20%） | 無回答 1 人（2%） |

避難前の島での仕事は、無職が 3 割強、自営業が 2 割強、その他 2 割。公務員が 1 割強である。

6. 現在の主な仕事は（あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください）

- | | | |
|-----------------|------------------|----------------|
| 1. 自営業 1 人（2%） | 2. 会社員など 2 人（4%） | 3. 公務員 4 人（8%） |
| 4. 無職 33 人（66%） | 5. その他 9 人（18%） | 無回答 1 人（2%） |

現在の職業は、無職が 6 割強と最も多く、その他が 2 割弱、公務員が 1 割弱である。

避難前に島で自営業や公務員をしていた人たちのほとんどが、現在、無職になっていると思われる。

7. 避難前に島で居住していた地区

（あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください）

- | | | |
|------------------|------------------|-----------------|
| 1. 神着 15 世帯（30%） | 2. 伊豆 5 世帯（10%） | 3. 伊ヶ谷 4 世帯（8%） |
| 4. 阿古 9 世帯（18%） | 5. 坪田 17 世帯（34%） | |

避難前の島での居住地区は、坪田が 3 割強、神着が 3 割、阿古が 2 割弱、伊豆が 1 割、伊ヶ谷が 1 割弱である。避難前の島での人口分布からすると、阿古が少なく、神着が多い傾向がある。

8. 現在居住している都道府県・市区町村（具体的にご記入ください。また、都道府県と市区町村のうち、あてはまるものに○を付けてください）

＜都道府県＞

- | | | |
|-----------------|----------------|---------------|
| ・東京都 41 世帯（82%） | ・神奈川県 1 世帯（2%） | ・埼玉県 1 世帯（2%） |
| 無回答 7 世帯（14%） | | |

＜市区町村＞

- | | | |
|----------------|------------------|----------------|
| ・練馬区 4 世帯（8%） | | |
| ・北区 3 世帯（6%） | ・港区 3 世帯（6%） | ・八王子市 3 世帯（6%） |
| ・品川区 2 世帯（4%） | ・日野市 2 世帯（4%） | ・府中市 2 世帯（4%） |
| ・町田市 2 世帯（4%） | | |
| ・江東区 1 世帯（2%） | ・杉並区 1 世帯（2%） | ・世田谷区 1 世帯（2%） |
| ・豊島区 1 世帯（2%） | ・昭島市 1 世帯（2%） | ・稲城市 1 世帯（2%） |
| ・青梅市 1 世帯（2%） | ・小金井市 1 世帯（2%） | ・小平市 1 世帯（2%） |
| ・調布市 1 世帯（2%） | ・西東京市 1 世帯（2%） | ・羽村市 1 世帯（2%） |
| ・東村山市 1 世帯（2%） | ・武蔵村山市 1 世帯（2%） | ・大島町 1 世帯（2%） |
| ・三宅村 1 世帯（2%） | ・川崎市麻生区 1 世帯（2%） | ・志木市 1 世帯（2%） |
| 無回答 11 世帯（22%） | | |

現在、8 割強の世帯が、東京都に居住しており、26 の市区町村にばらばらに居住している。

9. 避難前の島での住宅は（あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください）

- | | |
|---|----------------|
| 1. 持ち家35世帯（70%） | 2. 村営住宅3世帯（6%） |
| 3. 社宅や公務員住宅3世帯（6%） | 4. 借家6世帯（12%） |
| 5. その他2世帯（4%）（特養あじさいの里1世帯（2%）） 無回答1世帯（2%） | |

避難前の島での住宅は、7割が持ち家、借家が1割強である。

10. 現在の住宅は（あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください）

- | | |
|---|---------------------|
| 1. 持ち家10世帯（20%） | 2. 都道府県営住宅22世帯（44%） |
| 3. 市区町村営住宅2世帯（4%） | 4. 公団住宅3世帯（6%） |
| 5. 社宅や公務員住宅2世帯（4%） | 6. 借家4世帯（8%） |
| 7. その他7世帯（14%）（賃貸マンション1世帯（2%）、
特養老人ホーム2世帯（4%）） | |

現在の住居は、4割強が自治体が運営する住宅、持ち家が2割である。その他が1割強で内訳として明らかなものとしては、特別養護老人ホームと賃貸マンションである。

6年間で	回
------	---

11. 避難してから何回帰島しましたか

（一度も帰島していない場合は、「0回」と記入してください）

- | | | |
|----------------|---------------|---------------|
| ・ 0回 12世帯（24%） | ・ 1回 7世帯（14%） | ・ 2回 1世帯（2%） |
| ・ 3回 3世帯（6%） | ・ 4回 4世帯（8%） | ・ 5回 3世帯（6%） |
| ・ 6回 2世帯（4%） | ・ 7回 1世帯（2%） | ・ 8回 2世帯（4%） |
| ・ 10回 6世帯（12%） | ・ 11回 1世帯（2%） | ・ 12回 1世帯（2%） |
| ・ 15回 4世帯（8%） | ・ 20回 1世帯（2%） | 無回答 2世帯（4%） |

一度も帰島していない世帯が2割強と最も多く、1回だけの世帯が1割強である。他方で、10回以上帰島している世帯が3割である。このように、ほとんど帰島していない世帯と帰島回数が多い世帯が2極分化している。

B. 現在困っていることについて

12. 現在のご家族の収集の有無についてお尋ねします。

（あてはまるものすべてを選んで○を付けてください）

12-1 収入のある方

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 給与11世帯（22%） | 2. 年金29世帯（58%） | 3. 生活保護3世帯（6%） |
| 4. 家賃収入等0世帯 | 5. 事業収入2世帯（4%） | |
| 6. その他2世帯（4%） | | |

（具体的に：・適時に収入有り ・年金の不足分は預貯金の切り崩し）

年金で暮らしている世帯が6割弱。給与所得のある世帯が2割弱。生活保護を受けている世帯が3世帯（6%）であり、大半の世帯の収入源が年金で不足分は預貯金の取り崩しで補っている。

1 2－2 現在収入のない方

1. 預貯金の取り崩し 11世帯（22%）
2. 家族からの援助 3世帯（6%）
3. 借入れ 0世帯
4. その他 1世帯（2%）（具体的に：自立している）

預貯金の取り崩しだけで暮らしている世帯が2割強。家族からの援助のある世帯は、3世帯（6%）にしか過ぎない。

1 3. 1年前に比べて生計はいかがですか

（あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください）

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. とても苦しくなった | 11世帯（22%） |
| 2. 少し苦しくなった | 22世帯（44%） |
| 3. 同じくらいである | 15世帯（30%） |
| 4. よくなった | 0世帯 |
| 無回答 | 2世帯（4%） |

「苦しくなった（とても＋少し）」世帯が、6割強。ほとんど変わらない世帯が3割。「よくなった」世帯はない。

1 3. 1年前に比べて預貯金はいかがですか

（あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください）

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 全くなかった | 7世帯（14%） |
| 2. かなり減った | 18世帯（36%） |
| 3. 少し減った | 9世帯（18%） |
| 4. ほとんど変わらない | 12世帯（24%） |
| 5. 増えた | 0世帯 |
| 無回答 | 4世帯（8%） |

預貯金が「全くなかった」世帯が7世帯（14%）。「減った（かなり＋少し）」世帯が、5割強。「ほとんど変わらない」世帯が2割強。増えた世帯はない。

1 4. 今後の生計の見通しはいかがですか。

（あてはまるものを一つだけ選んで○を付けてください）

- | | |
|---------------------|-----------|
| 1. 今より楽になりそう | 0世帯 |
| 2. 今とほぼ同程度の暮らしができそう | 11世帯（22%） |
| 3. 今より苦しくなりそう | 26世帯（52%） |
| 4. わからない | 10世帯（20%） |
| 無回答 | 3世帯（6%） |

「今より苦しくなる」と答えている世帯が半数以上。「同程度」と答えている世帯と「わからない」と答えている世帯が2割。「楽になる」と答えている世帯はない。

15. 現在、困っていることは何ですか

(あてはまるものすべてを選んで○を付けてください)

- | | |
|--|------------|
| 1. 家賃の支払いが大変 | 14世帯 (28%) |
| 2. 島からの情報が届かない | 12世帯 (24%) |
| 3. 生活保護が受けられない | 0世帯 |
| 4. 近くに知り合いがいなくてさびしい | 16世帯 (32%) |
| 5. 町会費等が高い | 4世帯 (8%) |
| 6. 医療費が高い | 13世帯 (26%) |
| 7. 仕事がない、又は不安定で収入が少ない | 9世帯 (18%) |
| 8. 自分も含め、家族の中に喘息など高感度者や病気がちの人がいる | 16世帯 (32%) |
| 9. 子どもがいて進学や火山ガスなどの影響が心配 | 0世帯 |
| 10. 現在住んでいるところにエレベーターがないなど不便さを感じる | 1世帯 (2%) |
| 11. 未帰島の人への支援が打ち切られ苦しい | 13世帯 (26%) |
| 12. 三宅の家の修繕がまだで住めない、又住む所がない(村営住宅の広さと居住者の人数が合わず、矛盾を感じる) | 8世帯 (16%) |
| 13. 島の住宅の修繕費がかかる | 21世帯 (42%) |
| 14. 高濃度地区の立ち入り制限 | 6世帯 (12%) |
| 15. 飛行場が再開されないため | 13世帯 (26%) |
| 16. その他 | 11世帯 (22%) |

(具体的に：・現在、胆石で入院中のため、今後の健康がどうなるか心配。

・人工透析の機械が三宅島にないため。 ・島の家の周りのいわゆる「おちはらい」、草取り、家の補修(ペンキ塗り、修理)、墓の管理などに相当のお金がかかる。固定資産税など、島の個人の資産が大きな負の遺産になっている。 ・仕事の依頼がない ・老人ホームに10万円払うのが大変 ・収入不安定・三宅の住宅は住めるが、住宅の修繕の順番が回ってこない ・借金の返済と子供の進学(教育費)が二人分と重なって、かなり厳しい生活をしている。この先も不安である。 ・生活のため仕事をしたいが子供が小さいし、いざというときに頼れる人もいないので働くことが難しい。保育園に入っても仕事を見つけて続けていけるのか。 ・喘息のため入院医療設備が欲しい。股関節症・腰痛・その他。)

困っていることとして、「島の自宅の修繕費がかかる」が4割強。「近くに知り合いがいなくてさびしい」と「本人・家族の健康問題」が3割強。「家賃の支払いが大変」が3割弱。「医療費が高い」、「(行政等からの)支援が打ち切られて苦しい」、「飛行場が再開されない」、「島からの情報が無い」が2割強。「仕事が無い・収入不安定」が2割弱。「(家が未修繕や村営住宅を借りられないなどで)島の中に住むところがない」、「高濃度地区の立ち入り制限」が1割強。その他として、「借金の返済と子どもの教育費の二重負担で生活が苦しい」。「母子家庭で、小さい子どもがいるため働くことができない」、「老人ホームへの支払いが大変」等。

C. 帰島に対する考えや要望について

16. 帰島に対する考えについて

1. 帰島しない 12世帯（24%）

- ・ 帰島したいけれど、今の健康状態ではとても帰ることができない。
- ・ 年齢、体力など自立歩行できないので不可能。

2. いずれは帰島したい 31世帯（62%）

- ・ 病気が治れば帰島したい。医療機関について相談できる所を知りたい。都営住宅の入居について特例の措置が欲しい。

無回答 7世帯（14%）

- ・ （帰島は）望めない
- ・ 早々に帰りたいが住むところが確保できないので困っております。

2を選んだ方のみ、次の中であてはまるものに○を付けて下さい。

- | | |
|---|-----------|
| 1. 高濃度地区に住まいがあるため、危険がなくなれば帰島する。 | 6世帯（12%） |
| 2. 村営住宅など住宅が確保できればすぐにでも帰島する。 | 2世帯（4%） |
| 3. 健康状態がよくなれば帰島する。 | 16世帯（32%） |
| 4. 家屋の損壊がひどいため修繕できれば帰島する。 | 4世帯（8%） |
| 5. 仕事や職場が島で見つければ帰島する。 | 5世帯（10%） |
| 6. 子どもの学校の区切りがつけば帰島する。 | 3世帯（6%） |
| （何年後の予定：1年1世帯（2%） 未定1世帯（2%） 無回答1世帯（2%）） | |
| 7. 十分な医療（例：透析の機械が一台もない）や福祉サービスが島で受けられれば帰島する。 | 9世帯（18%） |
| 8. その他 | 9世帯（18%） |
| （具体的に：・人工透析の機械を三宅島の診療所に入れてほしい。一台入れれば5～6人は帰ることができる。全員それを待っている。・重度の障害が長男にあるため、帰島できない。・法律的サービス等が求められていない・火山ガスの減少を期待します。・身体障害者、各種病気を持っているので、子供のいる都内で我慢する。・避難してずっと母と生活してきてその間に母も骨折とかあって、これからよくなるとも思えない。具合のよいときに島の家の様子を見に行くことが出来ると思います。・噴火前のような状態に島がならない限り帰れない。以前のように観光業を営みたいが、今の島の状態ではかなり厳しい・生活が出来ない。・家そのものを建て替えないと住めないで困っています。噴火灰がたくさんある住居のため。・ガスの心配がなくなれば・・・。（体が）ガスに非常に弱いのです。） | |

「いずれは帰島したい」が6割強。「帰島しない」が2割強。帰島できない主たる理由として、本人・家族の健康問題と三宅島内の医療・福祉に関する施設・サービスの不十分さ。また、「火山ガス」、「住宅問題」、「就労・就業問題」がある。その他の理由として、「子どもの教育の問題」がある。

17. 今、あなたが、行政に望むことは何ですか。

(あてはまるものすべてを選んで○を付けてください)

- | | |
|-----------------------------|------------|
| 1. 子どもの教育費に対する支援 | 3世帯 (6%) |
| 2. 健康保険や年金などの保険料の減免や補助 | 13世帯 (26%) |
| 3. 電気・ガス・上下水道などの基本料金の減免や補助 | 10世帯 (20%) |
| 4. 住宅ローンの利子補給 | 1世帯 (2%) |
| 5. 税の減免 | 6世帯 (12%) |
| 6. 医療費の補助 | 16世帯 (32%) |
| 7. 特別養護老人ホーム「あじさいの里」の早期再開 | 6世帯 (12%) |
| 8. 生活費に対する支援 | 11世帯 (22%) |
| 9. 住宅の補修や再建への補助 | 10世帯 (20%) |
| 10. 家賃の減免や補助 | 6世帯 (12%) |
| 11. 高濃度地区に家がある人たち向けの村営住宅の建設 | 3世帯 (6%) |
| 12. 支援策などについてのきめ細かい情報の提供 | 10世帯 (20%) |
| 13. 三宅島への渡航費用の補助 | 19世帯 (38%) |
| 14. 三宅島―羽田間の航空路の早期再開 | 27世帯 (54%) |
| 15. 雇用の促進や安定の支援 | 7世帯 (14%) |
| 16. その他 | 5世帯 (10%) |

(具体的に：・住民票を移してしまったので、行政(三宅村)に要望を出すことはできないと思う。・福祉作業場など障害者サービスの充実。・村民としての地位確立・・・？・帰れないのだからその点をもっと考慮してほしい。・修理費を同じように出してほしい。帰らないというわけではないので。)

行政への要望として、「航空路の再開」が5割強。三宅島への渡航費用の補助が4割弱。

「医療・年金の保険料の減免・補助」、「生活費への補助」が2割強。「ガス・電気・上下水道基本料の減免・補助」、「住宅の補修・再建への補助」、「支援策についての詳細な情報」が2割。「雇用促進・安定の支援」、「島内の特別養護老人ホームの早期再開」、「家賃の減免・補助」が1割強である。その他として、「(自宅の)修理費を(帰島住民と同じように、行政で)補助してほしい」、「住民票を(三宅島から現住所に)移してしまったので、三宅村には要望できない」等がある。

最後にどんなことでも結構です。あなたのお考えやお気持ちなど、自由にご記入ください。

<行政への要望>

- ・村行政に問う。我々在京者を見捨てないで下さい。一日も早い高濃度地区の避難指示解除を望む。村営住宅について今までの制度を見直しきめ細かい村政を。村の財政も大変なことと思いますが、村民皆平等に。
- ・帰島できない人の家の修理等、住民票のない人への差別、体調よければ帰島するのに、家の修理代等自費で行っています。島民で同じ被害にあいながら、この点をお伺いしたいと思っています。
- ・主人は三宅島で、農業や漁業をしているので、島では米・正油・味噌があれば生活が楽ですが、病気があるため東京に月に1回は診察に来なくてはなりませんので、船賃も大変です。都営住宅と島の住宅での二重生活なので、電気水道電話代と生活費も大変です。せめて家賃も補助してくだされば生活費に回せるのにと 생각합니다。
- ・高濃度地区は限られた人数なので脱硫装置をつけてもらい他の地区と同等にしてほしい。
- ・健康診断のはがきが届いても島まで行くわけに行かないので、住んでいるところの近くで診てもらえたらと思います。
- ・現在の状況は、避難時よりも、経済的に大変です。帰島民に対しては、帰島時から、いろいろと免除されることや、援助がありましたが、我々帰らなかったというより、帰れなかったものに対しては、行政は冷たいものでした。私たちも好き好んで残ったわけではないのです。避難解除とともに、後は自分たちで何とかしろというような行政のやり方に憤りを感じています。島からの引越し代の補助すらありませんでした。切り捨てられた形です。せめて引越し代、生活援助資金等は出してほしかった。
- ・帰る気持ちでいるが、帰れない。それなのに島の家の修理費などは帰った人しかもらえないというところが納得できない。同じようにしてもらいたい。
- ・都営住宅等に公費で入居できるようご配慮願いたい。

<村議会への要望>

- ・議会報告書も年に3・4回程度は発行されていることと存じますが、清き一票を投じました在京者も先生方のご活躍を期待し、待ち侘びておりますので1年分を取り纏めて送付くださいますよう、お骨折りいただければ幸甚でございます。

<生活費の問題>

- ・来年末まで支払いがあつて、かなりの金額で別に無利子の社協からの借金の返済を一年延期していただいています。来春からどうやって両方支払いできるのか。
- ・避難中みたいにアルバイト（月に約5万円）があと1年あったら非常に助かるのですが、信用組合に年金の約半分返済中。

<医療施設・サービスの問題>

- ・病気のため帰島できない。
- ・だれ一人、人工透析のことを頭に入れている議員、村民がいないこと。自分の身に起

きないからこれまたしかたないと思いますが、八丈島、新島、大島には人工透析の機械が入り、東京にいた人が帰島でき喜んでいる言葉が七島新聞に載っておりました。三宅はだれ一人耳にしません。残念です。

<福祉施設・サービスの問題>

- ・現在小平市の介護老人保健施設に入所しているので一日でも早く三宅の施設に入所できれば戻りたいです。

<火山ガスの問題>

- ・ガスが来なくなれば、子供や孫たちが1年のうち何ヶ月かは島で暮らしたりできる。
- ・ガスが止まれば帰島したい。

<住宅の問題>

- ・三宅島の住宅の補修や維持費が相当な金額になり毎年貯金より充当しているが、預金も底をつきかけているので、住宅の立ち腐りが心配です。
- ・私は足が悪いので一度も家を見に行っていないが、長年雨戸を閉めているので家が傷んでいるでしょう。
- ・5年以上（家を）放ってあり、その間火山灰で汚され、風雨でメチャメチャになりました。

<子どもの問題>

- ・子供たちが中高のため転校が出来ない。単身で三宅に行くのは不安。
- ・はっきり言って村、都に見捨てられたと思っています。子供が小さく、喘息があるのでガスとの共生が無理です。家族が離れての生活は不自然だし、経済的にも厳しい。子供にも父親がいない生活は後々何らかの影響があるのではないかと……。今でも下の子は、「いつ帰ってくる？」とよく聞きます。私も一人二役は体力的・精神的に辛いです。

<三宅島へ帰ることのできない苦しさ・島への想い>

- ・子供は島へは帰らず東京で暮らすというので、帰らないことにしたのです。もう私は今夜にもお迎えが来るのかもしれませんが、子供のいうことを聞いて、こちらにいます。三宅が恋しいです。
- ・（子どもとは）形式上は別居だが、一人では生活できないので事実上は同居している。
- ・（現在の居住地で）生活のペースが大半できてしまい、変えることができない。
- ・もう一度、帰島して、自室の窓から青い大海原を見たい。
- ・島で生まれ育ったので、三宅にできれば帰りたい。

<その他>

- ・帰島するたびに三宅の人口の少なさを感じる。若者に会うこともなく、老人の島かと強く感じてしまう。
- ・高速船などで日帰りツアーがかなうならば三宅島に行ってみたいという人がたくさん

いる。

- ・ボランティアで三宅島観光の PR とか交流など、どの程度の協力が、またどれくらいの年齢までならば、個人でできるのかを知りたい。
- ・三宅島へ車で行けるとよい（フェリーが就航すると行き来が楽になる）。

・引越し代の補助や生活支援金、家屋修繕費用の補助などの行政の支援策が、帰島者と非帰島者の間で大きくて不公平であるという不満があり、平等な扱いをしてほしいという要望が多い。また、家賃や生活費の補助の要望もある。

・非帰島者の支援策等についての村議会の動きがわからないので、村議会の情報を知るために議会報告書の送付を求めている。

・収入がなく借金の返済が大変である。

・人工透析ができるように、人工透析の機械を村営診療所に入れて欲しいという腎臓患者からの要望。

・三宅島の特養老人ホーム「あじさいの里」の再開を望む。

・火山ガスが居住に差し支えない噴出量になり、三宅島に帰ることができることを望んでいる。

・長期の避難生活で住宅の被害が大きい、修繕する費用を賄うことが困難である。

・小さい子どもや中高生のいる世帯では、生計を維持するために家族が三宅島と都内で離れ離れに暮らさねばならず、また、子どもの教育のために三宅島に帰ることができない。

・三宅島に帰りたいが、健康問題や生活のために帰ることができない。

・働き口が少ないために若者が帰ってこない三宅島が観光を中心に経済的に復興するためには、交通手段を改善したりして、島に人を呼ぶためにはいろいろな工夫が必要である。